

文部科学省マテリアル先端リサーチインフラ 令和8年度 学生研修プログラム 参加者募集要項

令和8年4月1日
文部科学省マテリアル先端リサーチインフラ

1. 開催趣旨：

次世代の研究者・技術者の育成支援強化のひとつとして、大学生、大学院生、高専生を対象にマテリアル先端リサーチインフラの先端的な施設を利用した「学生研修プログラム」を実施します。このプログラムでは、革新的マテリアルに関連する研究・開発への興味を深めるとともに、最先端装置に関する技術を体験することを目的としております。

本プログラムの研修先は「マテリアル先端リサーチインフラ」に参画しているハブ・スポーク機関^(注1)です。このプログラムでは、革新的マテリアルに係る最先端の設備・機器の仕組みや原理を理解するとともに、日本の第一線の研究者、技術者の指導による現地研修を行っていただきます。研修修了後には、プログラムに参加した研修生、ホスト機関の研究者・技術者が会した成果発表会を開催いたします（旅費助成を受けた学生は参加必須、それ以外は参加任意）。

参加者は、大学・研究機関の最先端研究施設の利用を体験することで、本事業が推進する研究施設の共有化に対する理解を深めるとともに、研究者・技術者・他の参加者との交流を通じて今後の研究開発を進める上での人材ネットワークを形成することが期待されています。

2. 内容・日時・場所：

- ・現地研修は3日間～6日間で、研修テーマにより異なります。
詳細は「[学生研修プログラムリスト](#)」をご参照ください。
マテリアル先端リサーチインフラのホームページからダウンロードできます。
https://www.nanonet.go.jp/page/gakusei_2026.html
- ・成果発表会は令和8年9月中旬～下旬に茨城県つくば市にて開催します。

3. プログラム数・募集人数：

- ・プログラム数：48
 - ・各プログラム定員：1～5名
 - ・旅費助成対象：30名（予定）
- ※選考委員会にて審査し、6月中旬頃に選考結果をE-mailにて通知します。

4. 募集対象：

- ・国内の大学、大学院、高専に在籍する学生で、希望するプログラムおよび成果発表会に参加できる方。
- ・過去に同プログラムへ参加したことがある方も、応募可能です。

※各プログラムの募集対象要件は、「学生研修プログラムリスト」にある各プログラムの対象要件を参照してください。

※参加に際しては、所属学校における本プログラムへの参加の了解や、必要に応じて傷害保険に加入するなど補償等の措置が必要です。

5. 受講料：

無料

6. 旅費等：

- ・現地研修および成果発表会の旅費（宿泊費および往復交通費）は、自己負担または助成のいずれかとなります。
- ・応募時に旅費助成の希望を受け付けますが、応募書類（希望動機、希望理由など）をもとに審査の上、助成対象者を決定します。
- ・旅費を助成する場合は、国立研究開発法人物質・材料研究機構の旅費規程に基づき支給します。
- ・助成対象となった参加者は、成果発表会への参加が必須となります。

7. 応募について：

- (1) 応募方法 ホームページ (https://www.nanonet.go.jp/page/gakusei_2026.html) 内、
応募申込書 ([こちら](#)) に必要事項を入力の上、ご応募ください。
- (2) 応募受付期間 令和8年4月1日～令和8年5月31日 ※必着

8. 研修の報告：

- (1) 成果発表会での研修報告 ※旅費助成対象となった参加者は必須
現地研修終了後、ホスト機関の研究者・技術者等が参加する成果発表会において研修報告（プレゼンテーション及びポスター発表）を行っていただきます。
なお、旅費助成対象者は、原則としてオンサイト参加となります。
日時：令和8年9月中旬～下旬 場所：茨城県つくば市（オンライン併用）（予定）
- (2) 報告書 ※研修参加者全員
所定の様式にて報告書を提出していただきます。

9. 提出・問い合わせ先：

マテリアル先端リサーチインフラ 学生研修プログラム事務局
(国立研究開発法人物質・材料研究機構 ARIMセンターハブ運営室内)
E-mail：NPF_koubo@nims.go.jp
電話：029-859-2777（平日：9:00-12:00, 13:00-17:00）

(注1) マテリアル先端リサーチインフラについて

「マテリアル先端リサーチインフラ」では、ナノテクノロジープラットフォームで培った、全国的な最先端共用設備体制と高度な技術支援提供体制に加え、リモート化・自動化・ハイスループット化された先端設備を導入し、設備共用を継続すると共に、共用に伴って創出されるマテリアルデータを、利活用しやすい構造化された形で、収集・蓄積を行っていきます。「マテリアル先端リサーチインフラ」を構成する全国26の大学研究機関は、それぞれに重要技術領域を担います。各領域に強みを持つ先端設備群を提供するハブ機関と、特徴的な装置・技術を持つスポーク機関からなるハブ&スポーク機関体制を形成し、ご利用いただく皆様の研究開発のパートナーとして貢献してまいります。

本事業では、7つの技術領域（①高度なデバイス機能の発現を可能とするマテリアル、②革新的なエネルギー変換を可能とするマテリアル、③量子・電子制御により革新的な機能を発現するマテリアル、④マテリアルの高度循環のための技術、⑤次世代バイオマテリアル、⑥次世代ナノスケールマテリアル、⑦マルチマテリアル化技術・次世代高分子マテリアル）を対象に、産学官の幅広い利用者に対して、最先端の計測、評価、加工設備の利用機会を、高度な技術支援とともに提供します。

| 技術領域 | ハブ機関 | スポーク機関 |
|----------------------------|-----------|-------------------------------------|
| 高度なデバイス機能の発現を可能とするマテリアル | 東北大学 | 筑波大学、豊田工業大学、香川大学 |
| 革新的なエネルギー変換を可能とするマテリアル | 東京大学 | 豊橋技術科学大学、日本原子力研究開発機構、広島大学 |
| 量子・電子制御により革新的な機能を発現するマテリアル | 物質・材料研究機構 | 北海道大学、産業技術総合研究所、東京科学大学、量子科学技術研究開発機構 |
| マテリアルの高度循環のための技術 | 物質・材料研究機構 | 電気通信大学、自然科学研究機構分子科学研究所、名古屋工業大学、 |
| 次世代バイオマテリアル | 名古屋大学 | 公立千歳科学技術大学、早稲田大学、北陸先端科学技術大学院大学 |
| 次世代ナノスケールマテリアル | 九州大学 | 信州大学 |
| マルチマテリアル化技術・次世代高分子マテリアル | 京都大学 | 山形大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪大学 |

(詳細は[文部科学省マテリアル先端リサーチインフラホームページ推進体制](#)をご覧ください。)

以上